

寅さん歩 その 23

東京の博物館めぐりー47

大田区ー2

平野 武宏



新型コロナウイルス感染拡大が続いていた東京都の緊急事態宣言が 2021 年 10 月 1 日から解除になりましたので、お休みして残っていた区の博物館めぐりを再開しています。寅さん歩 東京の主要道路の起点～終点シリーズと並行して掲載していきます。

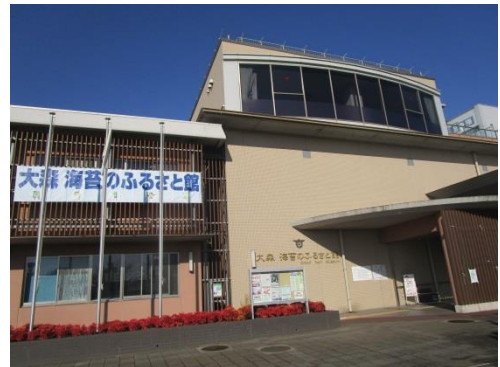
今回は大田区の博物館めぐりー2 です。右上の写真は大森ふるさと浜辺公園前の海です。区内にある博物館(記念館・資料館・展示館等の総称とします)から寅次郎の好みで選び、独断と偏見の紹介と感想です。詳細を知りたい方は各博物館のホームページをご覧ください。入場料の記載なしは無料、最寄り駅は代表駅です。

バーチャルウォークの途中経過も報告します。

〔大森海苔のふるさと館〕 大田区平和の森公園 2-2

最寄駅 京急線 平和島駅

「大森海苔のふるさと館」(写真下左は側面、右は正面入口)は平和の森公園内の大森ふるさと浜辺公園にあり、2008 年(平成 20 年)4 月に大森および周辺の海苔生産用具(国の重要有形民俗文化財に指定)と貴重な資料および海苔の歴史を展示紹介する施設として開館しました。また海苔づくりを支えてきた伝統の手技を体験できるコーナーもあります。



大田区の海辺は“海苔のふるさと”です。海苔づくりは今から 300 年ほど前、江戸時代の享保の頃（1716～36 年）に始まったといわれています。品川から大森周辺の海辺に“ひび”と呼ばれる粗朶木（そだぎ）を建て、その枝に育つ海苔を摘み取りました。特に浅瀬が広がる大森周辺は大きな産地として発展し、江戸時代の終わり頃、ここから海苔づくりが各地へと伝わり始めました。明治以降は、各地で海苔づくりが行われるようになりましたが、大田区沿岸の海苔は質・量とも全国に誇り”本場乾海苔“（ほんばほしのり）と称賛されてきました。残念なことは東京都沿岸部の埋め立て計画に応じるため、1962 年（昭和 37 年）12 月に生産中止を決定し、翌年春にその歴史を閉じたことです。しかし、江戸時代から培われた伝統は、生産が途絶えても海苔の流通業の中に生きています。大森周辺は海苔問屋が多く、現在も海苔流通網の重要な拠点の一つです。

1 階展示室には大田区に唯一残った「海苔船（伊藤丸）」（写真下左）と左にある一人乗りの「べかぶね」が展示されています。写真下右は海苔つけ場の情景を復元したものです。海苔の情報に関するライブラリーもあります。



2 階展示室（写真下左）には国の重要有形民俗文化財に指定されている海苔生産用具を展示してあります。また海苔の歴史の映像や、海苔下駄の体験コーナーなどがあります。写真下右は海苔づくりの春から秋の準備作業の展示と用具です。



写真下左は海苔づくりの冬の海苔採りの展示、写真下右は冬の海苔加工作業です。



3階は休憩コーナーで大森ふるさと浜辺公園が一望できます。
開館時間は9時～17時（6月～8月は19時まで）、休館日は第3月曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始（12月29日～1月3日）です。

[大田区立尾崎士郎記念館] 大田区山王 1-36-26

最寄駅 JR京浜東北線 大森駅

池上通りの山王口を左折してシャーマン通りを進むと右側に案内板があります。尾崎士郎記念館（写真下左）は2008年（平成20年）5月小説家 尾崎士郎の旧居（客間・書斎・書庫・庭）を復元し、開館しました。写真下右は玄関から中をのぞきました。



尾崎士郎（1898～1964年）は、1923年（大正12年）に馬込村中井（現在の南馬込）に転入し、作家生活のほとんどを馬込文士村（馬込を中心として、隣接した山王や新井宿を含めた一帯）で過ごしました。

仲間との交流を大切にした尾崎は馬込文士村の中心人物となりました。1937 年（昭和 12 年）「人生劇場」がベストセラーになり、尾崎は戦前を代表する小説家になりました。戦時中は静岡県伊東で暮らし、1954 年（昭和 29 年）大森・山王（現在地）へ新居を建てて戻り、1964 年（昭和 39 年）2 月 19 日に亡くなるまでこの家で過ごしました。建物内にある展示物は外から眺めます。



尾崎士郎の略年譜をみると「早稲田大学に入学するも社会主義活動に傾倒し除籍処分」、「宇野千代と結婚・別居・離婚」、「すぐに再婚」、「人生劇場のベストセラー」、「戦時中の当局の忌憚にふれ掲載した新聞が 1 日発禁」、「戦時中の言論活動に対して執筆制限などの追放令をGHQより受ける（2 年後、追放令解除）」と波乱の人生でした。さらに調べると「人生劇場」の歌は早稲田大学の第二校歌になっていると知りました。

開館は 9 時～16 時 30 分。休館日は年末年始（12 月 28 日～1 月 3 日）。

〔大田区立山王草堂記念館〕 大田区山王 1-41-21

最寄駅 JR 京浜東北線 大森駅西口

山王草堂記念館（写真右）は尾崎士郎記念館の前にある蘇峰公園内にありました。山王草堂記念館はジャーナリストの徳富蘇峰(1863～1957 年)の旧宅山王草堂の一部（2 階部分など）と蘇峰ゆかりの資料を保存・公開する為 1988 年（昭和 63 年）4 月に開館しました。



写真右は玄関の手前にある徳富蘇峰の胸像です。蘇峰は勝海舟(1823～1899 年)や新島襄(1843～1890 年)から直接教えを受けた後、1887 年(明治 20 年)日本で最初の総合雑誌「国民之友」を発刊、1890 年(明治 23 年)「国民新聞」を創刊しました。その後多くの作品を発表しましたが、1918 年(大正 7 年)、56 歳で「近世日本国民史」を書き始め、35 年近くの歳月をかけて、全 100 巻を完結させました。そのほとんどがここで書かれたものです。写真下左は勝海舟コーナー、写真下右はゆかりある人々との書状や資料の展示です。



蘇峰は山王草堂と称した居宅に 1924 年(大正 13 年)から熱海に移る 1943 年(昭和 18 年)まで暮らしました。その後、静岡新聞社が所有、1986 年(昭和 61 年)大田区が譲り受けて蘇峰公園として整備しました。開館時間は 9 時～16 時 30 分。休館日は年末年始(12 月 28 日～1 月 3 日)、臨時休館です。

〔大田区立多摩川台公園 古墳展示室〕 大田区田園調布 1-63-1

最寄駅 東急東横線/東急多摩川線/東急目黒線 多摩川駅

多摩川台公園は多摩川に沿う丘陵地にある公園で、古墳群があることで知られています。管理事務所には全国でも珍しい「古墳展示室」が併設されています。駅を出て右折して進み、次の坂を左折すると公園管理事務所(写真下左)で入口を入ると右側に「古墳展示室」があり、古墳(写真下右)が実物大で再現されています。古代ロマンの世界へのタイムスリップが楽しめます。



写真上は古墳内の展示物、写真左はマツリの風景「墓前祭」で前首長を葬り新首長が誕生する儀式で人形は音楽を奏でる人々とのことです。

開館時間は 9 時～16 時 30 分。休館日は毎週月曜日（祝日は開館）、年末年始（12 月 29 日～1 月 3 日）です。

公園管理事務所の右隣にうず高く盛り上がっている所があります。それは国指定史跡になっている「亀甲山古墳」で東京を代表する完全な姿を残す前方後円墳の一つで多摩川流域最大の古墳です。写真下左は亀甲山古墳の前にある説明板でフェンスの中には入れません。来た道とは別にこちらからも多摩川駅へ下りられます。この他に公園内には「宝来山古墳」や「多摩川古墳群」の都指定史跡があります。古墳好きの方にはたまらない場所ですよ。



また、多摩川台公園は桜、あじさい、水生植物、樹木など季節を通じて楽しめる場所で、目の前は多摩川、すぐ近くには田園調布の高級住宅街があります。

[バーチャルウォーク途中報告]

八柳修之さん作成の多くのバーチャルウォークコースがFWAホームページ「YR・四季の道」に掲載されています。寅次郎、「弥次さん 喜多さんと伊勢参り」のバーチャルウォークを済ませ、弥次さん 喜多さんと別れて、四日市日永追分に戻り、残った東海道五十三次を京三条まで歩きます。

2021年12月13日、四日市日永追分を出立、2021年12月23日、近江国（現在の滋賀県）水口宿（日本橋から440km）に到着しました。

緊急事態宣言は2021年10月1日から解除されましたが、新型コロナウイルスの新しい変異株（オミクロン株）が見つかり、世界中で感染拡大が始まっています。日本での感染拡大が心配です。例会が再開されましたが、毎日の運動不足対策にはマイお散歩コースを見つけ、その歩いた距離を累計して楽しむバーチャルウォークを始めませんか。

毎日の歩いた距離をコースシート上のマスの色塗りして進むバーチャルウォークはやりがいがあります。

FWAのHP「YR・四季の道」の「バーチャルウォークコーナー」は各コースが紹介され、各コースシートが印刷できます。

また「ひとり歩きコーナー」には地図付きの各コースがありますので選んで印刷して利用ください。

歩く際は密閉・密集・密接の密にならないよう、又それ以外の感染対策を怠らないようにお願いします！

平野 寅次郎 拝